

平成24年度「みえの現場・すこいやんかトーク」(松阪市)の概要

3月2日(土)に松阪市のお休み処物産館「うきさとむら」で「みえの現場・すこいやんかトーク」を開催しました。

当日は、うきさとむらで地域のために活動している皆さん7名の方にお集まりいただき、活動内容や将来への思い、行政へ期待していることなどについて、ご意見などをお伺いしました。



【参加者からの発言】

参加者の皆さんから、以下のようなご意見をいただきました。

- 「ひなまつり」では、小麦粉のだんごが入ったぜんざいが、とても人気だった。食べ物がなかった時代には小麦粉が主流だったので、40代くらいの人にはおふくろの味に思えるのか、ぜんざいを楽しみにして来てもらっている。4,000人来るお客さんの一人として知事にも来ていただきたい。
- 夏祭りや七草粥のイベントでは、1,000人から1,500人くらいの人があるが、100人くらいの方は地域外から手伝いに来ている。他の祭りとは違ういい雰囲気、地域外の人とも仲間づくりをすることができ自慢である。
- (自治会で運営する)「みんなの店」は、交流の場として、みんなが集まってくる。
- 全国山村振興連盟会長賞を受賞できたことで地域を活性化していきたい。雛を飾っ

ている人間も会話が豊富になって、元気になる。飾ってもらう方も、無料であられを用意して振る舞ったりして、心配りをする姿には心が温まる。なるべく安く、楽しく食事をしていただいて、元気に歩いて、見て回ってもらいたい。そういうことをこれからも続けていきたい。

- 大阪など遠い地域から来ているお客さんと触れ合あえるので良かったと思う。
- この地域へ嫁いできたので、内気なところがあったが、ひいなクラブへ入ってからは、若くなったと言われるようになってうれしい。
- 高齢化してきているので、医者がかきさとむらに来てもらって、気軽に医者と話したいと思っていた。4月から三重大学に勤務する医師の方に、一ヶ月のうち半分はここに住んでもいいと、最近言ってもらっていて、夢が実現しそうなところまできている。
- 江戸時代から全く改築されていない家屋があるので、文化庁へ補助の申請をして、活用していきたい。子供を対象とした活用方法を考えているので、そのときは協力をお願いしたい。
- 若い人がいないので、こちらへ働きに来てもらいたいが、どうすればいいのか。このままだと続けていくことが難しい。
- 障がい者の働く場として、考えたことはあるが、障がいによっては、難しい作業もあると言われたことがある。
- 材木の利用方法はどうなっているのか。何とか活用方法を考えてもらいたい。花粉もかなり飛んでおり、弊害が起きている。また獣害対策については、対処しようがないので、いい方法はないか。
- 山林の間伐がされていないので、保水できていない。子供のころは、水がないということはなかった。そういう対策も進めてほしい。

【知事の発言】

皆さんからのご意見を受け、知事からは次のような発言がありました。

県も若い人を呼び込む取り組みとして、移住フェアをやっている。都市部から来てもらうようPRする機会があればいいと思う。

障がい者の方にも活躍してもらうことができないか考えてみる。

議会に出しているところであるが、(みえ森と緑の県民税として)県民の方に1,000円を出してもらって、山林のために使おうと思っている。猿や鹿などの獣害による被害も大きいので、大量に捕獲する技術を考えているが、特効薬というものはない。奈良県や和歌山県とも連携して取り組んでいるところである。



【うきさとむらで地域のために活動されている皆さん】

高齢化・過疎化が進む松阪市柚原地区では、柚原町自治会で生活用品店や郵便局を運営しているほか、うきさとむら運営協議会による様々なイベントの開催、ひいなクラブによる「山里のひなまつり」の実施などを通じ地域の活性化に向けて取り組んでいます。

また、トーク会場の「うきさとむら」は、松阪特産のモロヘイヤを使用したうどん、若鶏の空揚げ、かしの焼き肉などの食事を楽しむ多目的交流施設です。